

准教授 加藤 智也

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
◎教育方法の実践例 学生のレベルに合った指導	2016年度	少人数の授業では、スキルがまちまちの学生に対してレベルにあった指導を行うとともに、学生同士で教えあうことで理解を深められるようにしている。
最新の新聞記事やニュース番組の事例活用	2016年度	授業内容を身近に感じてもらうため、社会で起きている出来事を具体的に取り上げ、学生の興味を引き付けている。
授業内容の公開	2016年度	授業進行の効率化、授業内容の理解促進、予復習の習慣化を目的に、授業で使用するPowerPoint教材をWebやLMSにて公開している。
学生企画の実施と支援	2016年度	学生の発想を尊重し、学生自らの手で責任をもちながら企画を遂行できるよう、的確なアドバイスを与え、学生の意欲・実践力向上に努めている。
SNSを活用した情報共有の推進	2016年度	アクティブラーニングを意識し、研究に関する情報の効果的な共有を可能とし、授業内外において議論を深めることに役立てている。学生にとっては、日常的にSNSを活用することによりネチケットの習得など情報リテラシー向上につながる。さらには、学生に対してスピーディーな対応を実現している。
WebやLMSを活用したアンケートの実施	2016年度	出席確認時に授業に関連する事柄についてPCやスマートフォンを使ってアンケートを実施している。その結果をリアルタイムで見せることで、学生の興味をひきつけることができるため、授業の導入として有効である。
LMSを活用した小テストの実施	2016年度	PCやスマートフォンを使って、講義の最初に小テストを出題し、講義中解答をしながら授業を聞いてもらい、授業終了後の提出させることで、授業に集中できるようにしている。

◎作成した教科書・教材 オリジナル教材の作成	2016年度	テキストの補足説明資料、理解度を確保するオリジナル課題、内容理解を促すスライド、毎回の授業後に理解度を確保するチェックシート、デジタルコンテンツの制作方法、企画の提案書、研究計画書および論文の書き方、発表資料の作り方に関する資料、見本や、ソーシャルメディアを扱うためのマニュアル、ガイドラインを作成している。
◎当該教員の教育上の能力に関する大学の評価 学生による授業評価結果	2016年度	すべての項目に関して学部平均を大きく上回っている。特に、授業内容は92%以上理解できており、100%の学生が学習意欲がわき、97%以上の学生が授業に満足できた、説明・アドバイスが適切だった、知識が広がったと回答している。(5段階評価で4以上)

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
◎学術論文 小学校におけるプログラミング教育に関する考察	単著	2017. 3	『名古屋芸術大学研究紀要』第38巻	本研究では、小学校でのプログラミング教育開始に向けて、子どもへの効果や教育・学習するための手段、そして実現するにあたり解決すべき課題について考察した。プログラミングを通じて高度情報化社会で不可欠な機器やサービスの仕組みを知ることは、世の中の仕組みを知り新たな仕組みを創造していく上で有益である。
◎その他 視聴覚に訴える日本史年号記憶動画の制作	単著	2016. 4	NHK Eテレ テストの花道 ニューベンゼミ	記憶に残るオリジナルイラストや誰もが知っているテンポのよいクラシック曲に歌を加えて、視覚・聴覚から右脳に働きかけることにより日本史年号を記憶として定着させる動画コンテンツ（ゼミナールで制作）がインターネット上で評判となり番組にて紹介された。